

令和6年

川崎町議会定例会 12月会議のご案内

開催日 12月3日(火)～12月6日(金)

開催場所 川崎町役場 議場(3階)

◆第1日目 12月3日(火) 午前10時～

- ・再開
- ・町長あいさつと行政報告
- ・議員派遣の件
- ・報告 令和6年度一般会計補正予算の専決処分
- ・所管事務調査報告

◆第2日目 12月4日(水) 午前10時～

- ・追跡質問
- ・一般質問
- ① 下斗米 麻子 議員 ② 佐藤 昭光 議員 ③ 佐藤 清隆 議員
- ④ 的場 要 議員

◆第3日目 12月5日(木) 午前10時～

- ・一般質問
- ⑤ 高橋 義則 議員 ⑥ 佐藤 新一郎 議員 ⑦ 佐々木 昭雄 議員

◆第4日目 12月6日(金) 午前10時～

- ・訴訟の和解
- ・青根観光施設に係る指定管理者の指定
- ・規約の変更
- ・補正予算 令和6年度一般会計補正予算
- ・閉会

■ 問い合わせ先：議会事務局
電話 84-2301

町政を問う 7人の議員が質問

一般質問要旨

通告第1号 下斗米 麻子 議員

1) 防災担当職員の現状について

当町の「地域防災計画」は、災害時における迅速かつ円滑な対応を目指し、町民の安全を守るための具体的な指針と手順を詳細に定めている。特に避難所の運営においては、町民一人ひとりが安心して避難生活をおくれるよう、さまざまなニーズに応じた支援体制が配慮されている。

今後も、中山間地としての地域の特性や予想される気候変動なども踏まえた対応が求められると思う。引き続き人員の強化と備蓄品の充実を期待するが、そのためには、地域防災をリーダーとして支える担当職員の力が不可欠である。「第10節職員の配備体制」の第4に、防災担当職員の確保と育成を検討するとあり、大変重要だと感じた。現時点での体制の現状について、人数や男女比等も含めて伺う。

2) 自主防災組織の現状と女性の参画について

「地域防災計画」の第6節にも取り上げているが、地域防災組織の役割は極めて重要である。現在、当町の地域防災組織のリーダーは、主に自治会や町内会の代表者が担当しているが、人材の確保や育成にはいくつか課題がある。特に地域の高齢化が進み、若年層のリーダー候補不足は深刻な問題だと思う。加えて、防災全般への視点を有する女性組織の必要性も検討すべきである。今後、地域防災組織のリーダー育成と確保を進めるとともに、女性や若者の積極的な参加を促す取り組みが重要だと思うが見解を伺う。

通告第2号 佐藤 昭光 議員

1) 川崎校のゆくえ

柴田農林高校川崎校は、来年4月から大河原産業高校川崎校に名称変更する。当町の今後の支援のあり方などを伺う。

- ① 柴田農林高校と大河原商業高校は、2023年度に再編統合して大河原産業高校となった。これにより前身の両校は1年生だった生徒の卒業とともに来年3月に閉校する。生徒数は今後も減ると思う。町内の実情、見通しは。
- ② 川崎校は現在、全日制県内唯一の分校。これに来年度は蔵王高校が白石高校の分校、一迫商業高校は築館高校の分校として加わる。私自身も硬式野球部の創設など、学校存続の運動を強力に進めた一人として不安に思う。町として不安材料はないのか。どんな考えでいるのか。
- ③ 勉学はもちろん、通学や家庭の事情などから川崎校を母校にしたい生徒がいる限り、町内唯一の川崎校は存続されなければならない。存続について、これまでどんな手立てをしているのか、今後はどうか。

2) 特殊詐欺の横行

- ① 宮城県警が11月6日、仙台市を拠点とする特殊詐欺グループ29人を逮捕し世間を驚かせた。SNSの出会い系サイトなどにメッセージを送る「打ち子」として現金などをだまし取る手口で、全国で3,700人70億円の被害を出しているとみられる。当町では誘いの電話や被害はあるのか。
- ② 逮捕者たちは「闇バイト」とは知らずに応募していたという。いつ魔の手が伸びてくるかわからない近接市での犯罪に不安を感じる町民もいる。当町の対策の現状と町民へのアドバイスは。

通告第3号 佐藤 清隆 議員

1) 地域活動の維持に集落支援員の配置、検討を

集落支援員とは平成20年度、過疎問題懇談会の提言を受け総務省が事業を始めたもので「過疎地域等における集落対策の推進要綱」により取り組まれており、地域おこし協力隊と両輪で地域を支える仕組みである。

当町も過疎地域の指定を受けるなど急激な人口減少、高齢化が進むなか長引いたコロナ禍もあり、従来の地域活動維持が年々厳しくなり多くの課題を抱えている。課題解決や新たな地域の在り方を考え取り組んでいく時期にあると思う。そこで次の点を伺う。

- ① これまで検討されてきたか。
- ② 今後、地域活動が現状のまま十分機能していけると考えているのか。
- ③ 新たな地域の在り方を考える上で配置する考えは。

通告第4号 的場 要 議員

1) ゼロカーボンシティ宣言推進について

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、官民ともに脱炭素のための施策が求められている。地方自治体は、温室効果ガス排出の削減等のための総合的かつ計画的な施策を策定及び実施するよう努めることが求められている。二酸化炭素実質排出量ゼロに取り組む「ゼロカーボンシティ」を表明する地方公共団体も増えており、当町も2023年3月6日に宣言している。

これまで、各施設のLED化等も含め、脱炭素関連の事業に取り組んできたが、現状と今後の方針を伺う。

- ① 二酸化炭素排出量減少に向けた各事業とこれまでの実績は。
- ② 充電スタンド設置に取り組む自治体が増加傾向にある。当町でも検討できる事業であると考えているがいかがか。
- ③ 地方公共団体が脱炭素に取り組む姿勢として、公用車のEV化推進も併せて検討していく段階にあると考えるがいかがか。

通告第5号 高橋 義則 議員

1) 人口減少対策は

当町の人口は年々減少し、10月現在で7,957人である。年齢別比率も高齢者の割合が高くなっていることを考えると何らかの対策をしなければならない。そこで次の点を伺う。

- ① 11月15日、地域おこし協力隊との意見交換会で、空き家バンクはあるが家の中は物が多く、すぐに生活できない状態と伺った。すぐ住めるよう町が整備し、借りやすい環境をつくれば移住も増えると思うが。
- ② ある市町村では町が建築した住宅を、年限を決めて安い料金で貸すと移住しやすいのではと意見が出た。対策をすべきでは。
- ③ 母子家庭や父子家庭といったひとり親世帯が他の市町村では多く見られるが、子育てしやすい町として、そういった世帯の受け皿となるような支援制度を創設する考えは。

2) 3割り増し商品券の実態と今後の対応は

3割り増し商品券は好評で、すぐ完売と聞いた。そこで次の点を伺う。

- ① 今回は1,000セット販売したが、この数で十分か伺う。
- ② 多くの参加店があるが、どの業種に使われているのが多いか。地域活性化に効果がある商品券になる対策は。
- ③ 今後の問題点はどのようなものがあるか。
- ④ 来年度は多くの割り増し商品券販売が町民に潤うよう、さらに効果を上げたものを勧めてもらいたい。今後どのような内容で進めていくのか。

裏面へ続く

通告第6号 佐藤 新一郎 議員

1) 防犯カメラの設置について

今年8月、当町のメガソーラー発電所において、銅線を盗んだ容疑で外国人が逮捕された。その際、窃盗をしている様子が防犯カメラに録画され、逮捕に至る証拠となった。そこで、当町の防犯カメラ設置の状況と設置に向けた考えを伺う。

- ① 当町の防犯カメラの設置箇所及び台数は。
- ② 通学路や公園、その他交通量の多い道路に設置の考えは。
- ③ 防犯カメラ設置店舗の協力について。
- ④ 防犯カメラ設置に係る補助金の考えはあるか。
- ⑤ ライブカメラを活用した町の様子を配信する考えはあるのか。

通告第7号 佐々木 昭雄 議員

1) 川崎中学校のトイレ臭い対策

先日、川崎中学校を訪問し、子どもたちの教育衛生環境を伺った。春先の状況視察では男子トイレの小便器が臭うなどの問題があった。詳細を確認すると昭和50年11月の建設から既に49年経過している校舎なので、当時としては主流だったオーバーフロー型洗浄タイプのトイレだった。水道代節約のため、使用後各自バケツで水を流す対策を実施しており、臭いもして衛生的とは言にくいものである。

使用するトイレの2～3台の便器にだけでもプッシュ型洗浄タイプを設置するというのは不可能ではないと思うが、見解を伺う。

2) レイクサイドマラソンビュースポット整備について

去る10月20日に開催された레이크サイドマラソン大会は、天候にも恵まれ本当に素晴らしい大会だった。滝見橋を渡り上石丸から折り返しまでの湖畔沿いを走る、県内には無い素晴らしいランニングコースだが、一部草木（竹藪）が生い茂り、せっかくの湖畔を見渡すビュースポットが見えない残念な場所がある。そこが整備され綺麗になれば、参加者も増えると思う。管轄が国交省ダム管理所と宮城県が微妙な境だと思うが、素晴らしいビュースポットをつくる目的で、町が中心となりコーディネートし協力関係を構築すべきと思うがいかがか。

傍聴に手続きは必要ありません。どうぞお気軽にお越しください。

インターネットによるライブ中継が視聴できます。町のホームページより
ご覧下さい。

川崎町議会議長 眞壁 範幸